2012 年　11 月　1 日発行（通算第 66 号）

発行　　高橋　光夫方　呑川の会
連絡先　〒145-0061　大田区石川町 1－26－8
呑 川 の 会　HP
http://home.m00.itscom.net/nomigawa/
http://home.t07.itscom.net/nomigawa/【第 2】
高橋会員 HP http://homepage2.nifty.com/aoiyume/
呑川の会　e-mail：mitsuo.takahashi@nifty.com

の　み　が　わ

石 神 井 川 中 流 ウォーキングへのお誘い
――恒　例　秋　の 都　市　河　川　学　習　視　察――

（白石　琇朗　記）

＊集合日時：11 月 10 日（土）10 時・西武池袋線練馬高野台駅
＊解　　散：15 時・東武東上線中板橋駅
＊散策順路：歩程・約 8.5 キロ（有楽町線氷川台駅・約５キロ）
＊会　　費：500 円
＊コース：　全長約 8.4ｋｍ
西武池袋線・練馬高野台駅→環八通・練馬大橋→豊島園・石川橋
→豊島園・中之橋→練馬総合運動場(ＷＣ・昼食）→高稲荷公園
（ＷＣ)→有楽町線・氷川台駅→城北中央公園(ＷＣ)→環七通
→川越街道→下頭橋→東武東上線・中板橋駅

石神井川は流路延長 25.2 キロの荒川水系の１級河川で、源流は小平市の小金井公園に隣接する小金井カントリー倶楽部です。練馬区の武蔵関公園の富士見池、石神井公園の三宝寺池、豊島園池等の湧水や河床からの湧水を合わせる清流です。富士見池は水害防止の調整池の役割も果たし、三宝寺池（500 ㎥/日の井水）・石神井池の水は浄化の上で循環しており、普段は石神井川へ接続されていない。中流部は洪水対策で川幅を広げ、川底を深くする工事が現在進行中。

高野台駅から遊歩道を歩くと、石川橋で石神井川は豊島園の中に入るため、迂回路を通る。右岸の練馬総合運動場を通り、左岸の城北中央公園で板橋区に入り田柄川を合わせる。中板橋駅まで平坦な道を行く。下流部は中山道を横断し、ＪＲ埼京線を潜って北区に入り、音無渓谷の深い谷を流れ飛鳥山隧道を抜けて、北区堀船三丁目で隅田川に注ぐ。

夏のワクワク教室に参加
―雪谷小学校の夏休みのワクワクスクール―

（福井　甫　記）

雪谷小学校の夏休みのワクワクスクールに去年の冬に引き続いて参加した。学校で行う水泳指導の影響もあり呑川の会は 8 月 29 日に実施。私たちへの応募者は 27 名。雪小全体のワクワクスクールの参加者は延べ 1692 名。全体として低学年ほど参加者が多く、1，2 年生で４４％を占めるから参加資格を原則 3 年生以上に限った呑川の会としてはまあまあというところだろうか。27 名の学年別内訳は 2 年 1 名、3 年 13 名、4 年 7 名、5 年 5 名、6 年 1 名。この 6 月に 3 年生は授業の「まち探検」で呑川を歩いているので、それにしては、よく参加してくれたものと思う。

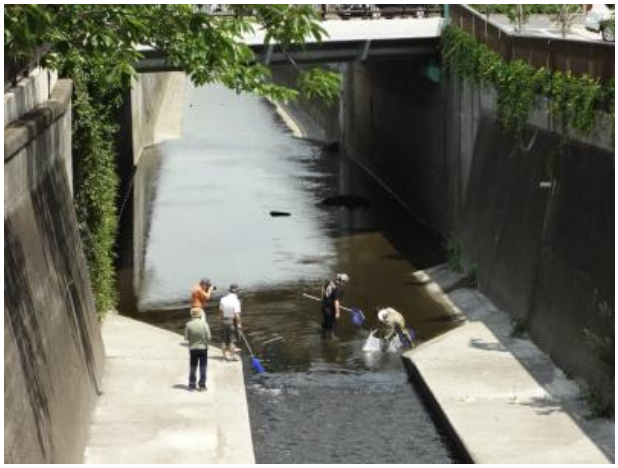
始めに白石さんの呑川の全体説明の後、工藤さんの案内で雪小から道々橋までのウォーキング。その後　高橋さんのスライド写真による呑川の生きもの―――ユスリカ、蝙蝠（こうもり）、カルガモ、カワセミ、鮎、ハゼからアリゲーターガーまでの紹介。雪小付近ではユスリカ，蝙蝠、カルガモ以外はほとんど見かけないが他地区では結構多くの生きものがいることは感じてくれたのではないかと思う。

―― 生　き　も　の　調　査 ――

地 域 力 応 援 基 金 助 成 事 業

（福井 甫 記）

呑川ネット（呑川の会もその会員）が区から受けた地域力応援基金助成事業として
6 月 4 日　四手網とタモを使ったさかな調査を行った。以前テレビ朝日がアリゲーター騒ぎの時、定置網を使ったさかな調査を行い、10 種程度のさかなを捕獲し、その際定置網にはかからなかったが、呑川で初めてアユを見つけたので、同様な調査を検討したが、種々の事情で不可能で、止むを得ず**四手網**による調査に切り替えた。



前ページの写真は、四手網による調査の模様です。

私たちは四手網の経験がなく、品川の熱帯魚ショップに依頼。当日とれたのは**ドジョウ、スミウキゴリ、オイカワ、テナガエビ、モクズガニ**。若干少なかったのは残念だった。

現在　久が原・仲池上地区の仲之橋の架替え工事中で、全般にこれまでより魚が少ない印象があるが、その影響もあるのだろうか。一方ミシシッピーアカミミガメの卵も捕獲し改めて外来種のミシシッピーアカミミガメの呑川定着化を確認。

またT.Fさんという女子高校生（3年生）が授業もあるにも関わらず、午前中だけであったが自前のウェットスーツ姿で参加してくれたのは非常にうれしいことだ。東京海洋大学に進学したいとのことだったが、頭でさかなが好きなだけでなく、実際厳しいハシゴを下り、川に入り、魚を追いかける姿を見てうらやましく思う。

10/13～10/14　来場者なんと1万人！

「おおた商い・観光展　2012」に初出展

―　今回テーマ　“呑川で出逢える生きものたち”　―

（高橋　光夫　記）

「大田観光協会」からのお誘いを受け、「呑川の会」としては初出展で、なにをテーマにすべきか迷いました。

観光協会の栗原事務局長からは「市民団体の活動の発表の場とはしたくない」「将来、観光シンポジウムとして開きたい」の2点が示されました。
そこで、現時点ですぐ提供できる「呑川で出逢える生きものたち」をテーマにしたのです。
展示した写真は「生きもの」関連 20 数枚、「風景」関連 10 数枚で、観光協会でA3サイズパネルを作ってくださり、きれいな写真展となりました。来場者のほとんどは蒲田地域の方で、「きれいな呑川」「生きもののいる呑川」を知らず、「ここ、どこなんですか？」との質問にお答えすると、びっくりされていました。
そういう意味で、「呑川の実態はほとんど知られていない」ことや「我々の PR 不足」を感じました。こういう機会に「呑川案内パンフ」などを提供することも出来ず、準備不足を感じました。

しかし、このイベントの集客力はすごく、押すな押すなで、なんと１万人を超えたそうです。

その方々をなるべく多く、4 階の我々のコーナーに来ていただくようにするにはどんなことをすれば良いかも、今後の課題です。

（今回は「呑川の会」と共同展示となった「六郷用水の会」が、呑川と六郷用水の流れを示した特大地図を作ってくださいました。）

呑川講座を終えて

―全５回、２回の呑川ウォーク―

（菱沼　公平　記）

消費生活者センター　講座室での、座学の様子

呑川上流部ウォーク（直線に改修された呑川）での様子

10 月 25 日、5 回の呑川講座が終わりました。大田区との関係を含めて最終決定が遅かったために、「大田区報」に掲載出来ず宣伝不足で心配しましたが、19 名（1 日だけ参加を含む）の方々にご参加して頂けました。私達呑川ネットの会員自身も学ぶ場と捉え多数参加しました。講座は、呑川を多くの区民に知ってもらい、共に「**ふるさとの川**」と言われる呑川を目指し、運動を一緒にする仲間を増やしていきたいと思い、企画しました。

私達呑川ネットの呑川に対する思いは、「**臭気やスカムの無いきれいな川**」「**上から見るだけでなく、水辺に降りてそこで遊べる川**」「**最上流まで魚が住める環境の川**」「**川が近隣住民の憩いの場となる呑川**」などです。そこで講座の内容、

☆ **第 1 回**は、「呑川の概要・六郷用水との関わり」では、昔からの呑川の支流を含めた流れがどうだったのか、また六郷用水との関わりはどうだったのか、現在の呑川の流れ、水源は湧水でなく、新宿にある「落合水再生センター」からの下水の高度処理水がほとんどという状況などを説明した。「呑川の歴史」では、武蔵野台地の成り立ちから、農耕の時代には水との関わりから呑川との関係も生まれた。近代になりこの地域が住宅・工場用地に替ると洪水対策に費やされ、「臭いものには蓋」と言われ多くの都市河川同様呑川でも上流・支流が暗渠化された事など、時系列に説明した。

☆ **第 2 回**は、呑川上流ウオークでした。3 面コンクリート張りの護岸、中原幹線、耕地整理と一緒に直線化された川など治水に重点を置いた川の姿が見えました。しかしそれでも上流域では、水もきれい、周囲に公園も多くあり樹木も多い、桜並木も立派であった。もっとも呑川では学校のそばは桜並木になっている。途中で「カワセミ」の飛ぶ姿を一部の人は目撃出来ました。

☆ **第 3 回**は、「呑川の水・水循環」では、戦後の呑川は下水が流れ込みドブ川状態だった。そこへ大雨が降ると洪水を引き起こした。大田区に農地が無くなり宅地に替ってからは、洪水対策の河川改良が始まり現在の川の姿になり、50 ㎜対応（毎時 50 ㎜の雨が降っても洪水の起きない対策が出来ている）の川になった。合流式下水道は大雨の際、下水を溢れさせないために下水を川に放流する、これを越流水と言い、呑川には大田区内だけでなく、世田谷区・目黒区の一部も呑川へ放流されている。この越流水が下流域を汚している。大田区では色々対策をしているが、いまだにこれといった有効な対策はなされていない。「呑川のいきもの」では、「呑川の近現代史からみる、現代を生き抜く生きものたち」として、海苔漁業の歴史と呑川との関わり、近代産業と東京湾の埋立、水源の枯渇によるドブ川化、清流復活事業による下水の高度処理水の放流など人間による多くの変遷を重ねて来たが、そうした過酷な環境にも負けず生きものたち（魚・鳥など）が呑川に帰って来た。しかし毎年大量の越流水流入により年数回の小魚の大量死が発生している。水質改善は周辺住民だけでなく、呑川に生きる「いきもの」たちにも必要なことである。

☆ **第 4 回**は、呑川下流ウオークでした。天気も良く、季節的に安定期になってきており、一部でスカムが流れていたが、相対的に水はきれいな方だった。大田区で行っている「水質浄化実験装置」は、運転を停止していた。池上周辺は見どころも多く、呑川新橋（産業道路に架かる橋）脇の大森東 1 丁目公園に到着したのが 12 時を過ぎていたため、ウォークはここにて中止し解散した。ここから最下流の旭橋までの間は河岸に道が無く、川を見ながら歩くにはジグザグに歩かなければならず、河口まで 30 分近くかかるという事情で中止にしました。

☆ **第５回**は、「都市河川の再生と地域づくり」という事で、菊地俊夫　首都大学東京教授　理学博士　都市科学研究科（地理環境・観光科学）に講演をお願いしました。

都市河川の再生と地域づくりに必要なものには、**ソフトな整備**と**ハードな整備**がある。

☆ **ソフトの面**では、ソーシャルキャピタル（社会組織や地域のまとまり）の向上が必要。それには「信頼」と「規範」に基づく「人的ネットワーク」が大切である。その周辺の組織、団体が重層に結びつき目標に向けて活動すること。河川の生態系に基づいた川づくりと地域づくりを考える。上流から下流までの自然環境を考慮して今残されている緑地などを拠点にして「水と緑の軸」を構築し、地域の点から、線へ、面（平面的）から空間（立体的）に拡張していく制度や計画の構築。そして多角的な情報発信や啓蒙活動の強化などがある。

☆ **ハード面**では、3 面コンクリ張りの護岸でも工夫次第で緑化は可能である。また河床に瀬や淵を作る。親水空間で都市の再編。緑化の多機能化（見た目だけでなく、気温上昇の抑制、人の集う場所）。都市河川の再生と地域づくりの最終景は、都市河川の多機能化（治水機能だけでない、緑地機能、余暇・レクリエーション機能、アメニティ機能など）

- 治水機能は重要（市街地の河川の特徴を理解）
- 地域組織のネットワーク化（ソーシャルキャピタルを高める）
- 緑化を高める工夫：多自然型川づくり、緑化の工夫、水と緑のネットワークの形成
- 親水空間としての役割の強化：水辺にいることの安らぎや癒しを提供、余暇空間としての散策、良好な居住環境の構築としてまとめ講演を終えた。

その後、3 つのグループに分かれて話し合いを行った。
皆様から出された主な意見は次の通りでした。

○川を上から見るだけで、川に降りられない。降りられる場所がつくれたらいいと思う。
○前に源流から河口まで歩いたが、緑道化には反対。
○川の姿が日によって大きく変わる。
○一度死んだ川をどう再生させるか、これが難しい。
○呑川のＰＲをどうするか工夫する必要がある。
○小学校の夏休みのワクワク教室に、積極的にエントリーしたらどうか。
○河岸道路に車を通さないように出来ないか。
○面白みのない川だ。
○川の清掃活動をしたら良いのでは。
○水の量を増やせないのか。
○川と公園の関係がちぐはぐだ。

以上のように全体として良い講座だったと思います。私達の力不足で会場を満員に出来なかったことが残念でした。私達会員の勉強にもなりとても有意義なものでした。

以上

呑川に合流する「流れ」考　6
――柿の木坂支流――

（白石琇朗・寄立美江子　記）

目黒通りにある柿の木坂という坂名の由来は、坂を登る荷車から子供たちが柿の実を抜き取ったから「かきぬき坂」とか、坂の近くにひときわ大きい柿の木があったからとか言われていますが、「柿の木坂支流」の源流は環七通りの近くの目黒区と世田谷区の区境で、二ヵ所あり、面白いことに源流の脇に自民党の町村さんの家がありました。深沢流れの源流の脇にも小沢邸があったのを思い出しました。

この流れは昭和 55 年に作られた。約 70 種の花木がある、まるで植物園のような緑道に生まれ変わって、1 年中散策しても楽しいように目黒区が造ったようです。都立大学の駅前を通って呑川本流に流れ込みますが、駅近辺は昭和 48 年の住宅地図では、流れの上に飲み屋とかお店が 20 軒程並んでいるのが珍しかった。今は近くのビルに転居しているようです。

柿の木坂支流緑道

町村邸の脇の流れ

11月10日（土）　石神井川中流部ウォーキング

秋の気持よい空気を吸いながら、一緒に歩こう！

みんなで参加しよう！

呑川沿岸（工大橋～河口）の樹木

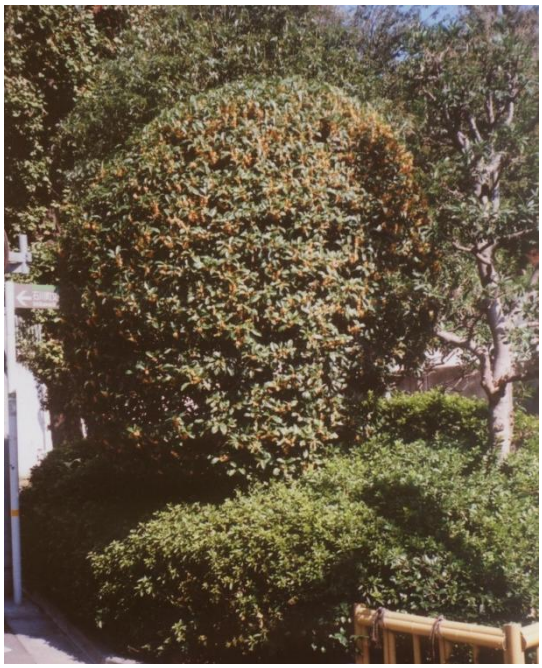
――第 16 回　金木犀（キンモクセイ）――

（可児 昭雄 記）

夏の猛暑もやっと過ぎ爽やかな秋になり、澄みきった青空のもと散歩すると何処かともなく甘い香りが漂ってくる。その原因が「モクセイ（木犀）」である。この樹木には黄色の花の「キンモクセイ」、白い花を咲かせる「ギンモクセイ」の二種類ある。「キンモクセイ」は関東に多く、雌雄異株の中国原産で江戸時代に雄だけ渡来し結実しない。挿し木で繁殖する「ギンモクセイ」は関西地方に自生しているため関西に多い。「モクセイ」は木肌が動物の「サイ」に似ているので「犀」と書く、中国南部の景勝地の桂林に多いので「桂（カツラ）」と書く。
花を焼酎に漬けて、果実酒として飲むと美味である。

キンモクセイ（金木犀）

- **常緑樹**
- **雌雄異株**



参考文献：

「「歳時記」の真実」
　石　　寒太著　文春新書
「日本の樹木」
　辻井 達一　　中公新書

会　　員　　動　　向

☺ **入会**　畑中裕之さん（実家は西蒲田だが、仕事は千葉に赴任）

☹ **退会**　深沢ナオエさん、柿沼昌芳さん、荒木昭一郎さん、折戸清さん、斎藤悦子さん

荒木さん、折戸さんは呑川の会創立からの会員で特に折戸清さんは会ニュースへの寄稿、久原小学校等の呑川ウォーキングへの参加、定例会出席等、積極的に活動されました。みなさまの永年のご支援を厚くお礼申し上げます。

呑 川 の 会 へ の お 誘 い

私たち呑川の会は大田区を西北から東南へ文字通り貫流する呑川を楽しむと同時に呑川がもっと区民にもっと親しまれる川にならないかと活動している団体です。1997 年からほぼ 15 年経過しておりますが、そのような活動が認められ 2011 年 7 月には都建設局から河川愛護活動に努めたと感謝状が贈呈されました。

私たちは具体的には呑川はじめ近辺の川を楽しむとともに小学校の呑川ウォーキングへの協力、呑川写真展の開催、呑川の環境改善について東京都・大田区への提言活動等々の活動をしております。その趣旨に賛同され、是非　加入くださることをお願いいたします。

- 年会費＝2000 円（中途加入者はその年は 1000 円）
- 連絡先　高橋光夫・呑川の会代表まで
- 電話　　080-5376-8419　E-mail　mitsuo.takahashi@nifty.com

今 後 の 行 事 ・ 予 定 等

☆　１１月２４日（土）　９時３０分　京急平和島駅集合

✧　船による呑川ウォッチング（呑川ネット主催）

チラシを同封します。ご参加希望の皆様をお待ちしています。

☆　１２月８日（土）　１４時～１６時 蒲田小学校

✧　呑川の会定例会　　そのあと　忘年懇親会

☆　２月２４日（日）　エコフェスタ　　於　池上小学校

☆　１月２６日（土）２７日（日）１０時～１６時

区民活動フォーラム「知ってなるほど、来て楽しい」をキャッチフレーズに

会活動の紹介と呑川講座開催－区役所２階で約２時間

☆　呑川の会定例会予定

２月９日（土）１４時～ コラボ大森ミーティングＲ（予定）

４月１３日（土）１４時～ コラボ大森ミーティングＲ（予定）

編集後記

９月は、観測史上最も気温が高かったそうです。東京は平年より３度も高かった。

１０月に入ると、急に秋めいて日に日に、寒さが増してきました。もうすぐ、１１月。今年も、あと残すところ２ヶ月となりました。いろいろなことがありましたが、呑川の会では、会員の結婚というおめでたいニュースがありました。

ちょっと早めですが、皆様よいお年を！　　工藤　英明